

2025.4.25

もみまき

今年も保護者の方に種籾の準備をしていただき、当日は「どのようにしたらよいのか」教えてもらいながら行いました。
今年、もみまきにどんなものを使っているのか紹介します。

種籾



収穫したままで、籾殻という固い殻が付いたままのお米を「籾」といいます。そのなかでも稲にするために良い大きさのものを、お米の種としてとっておきます。これが種籾です。
学校で使っている種籾は、有野さんのおうちで消毒して、塩水に入れて選別したあと、一斉に芽が出るように水につけて水分を吸わせているものを準備してくれています。

土(床土と覆土)

《床土》

ポットの底に入れる土で、肥料が入っています。稲を育てるのに必要な水分を適度にためることができ、「しきぶとん」の役割をします。色は黒っぽいです。

《覆土》

つぶつぶになっている土で、水につかりやすい土です。肥料は入っていません。種籾にかけてあげる「かけぶとん」の役割をしています。色は茶色っぽいです。



《床土》



《覆土》

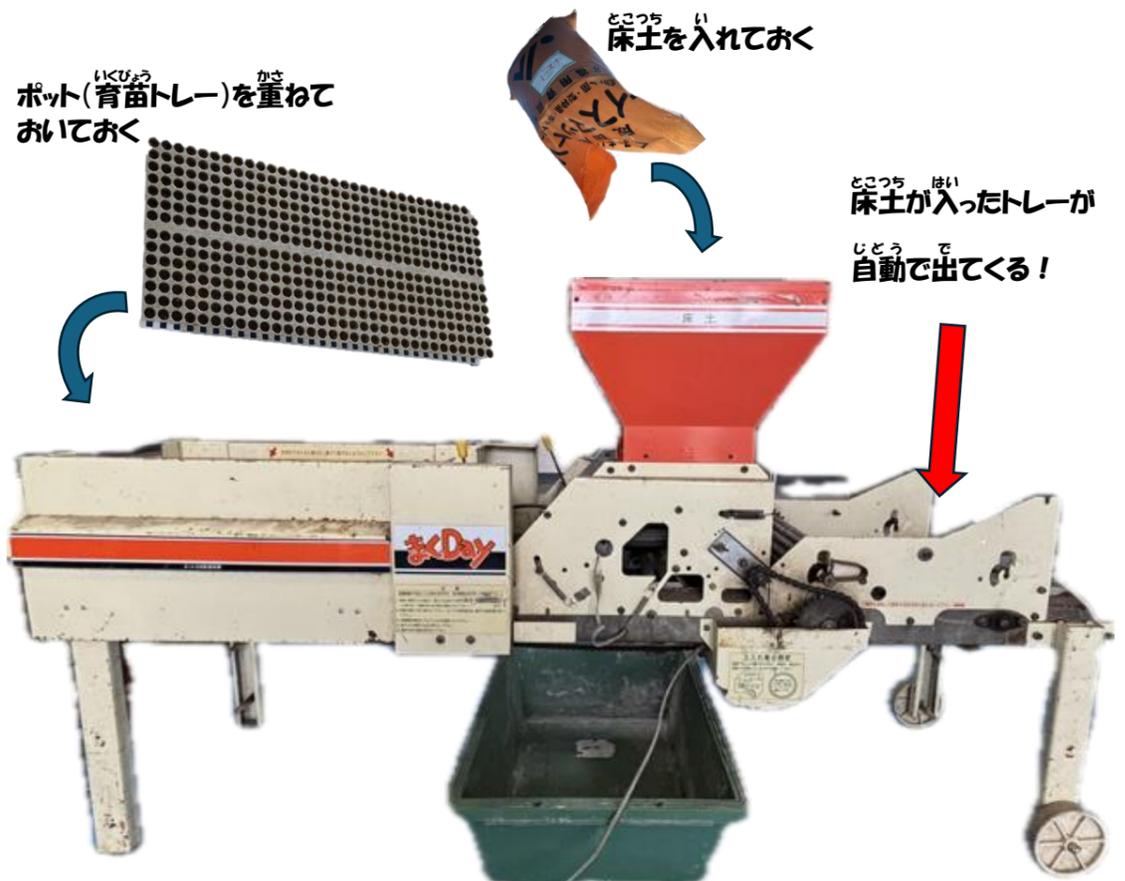
ポット全自動播種機

* 播種…種をまくこと

お米の苗を育てるにはいくつかの方法があります。北光小学校では「移植栽培(ポット式)」で教えてもらっています。

さらに北光小学校では、この機械、その名も

「まくだー」を使って、保護者の方が床土をポットに入れてくれます。



いろいろな栽培方法

北光小の栽培方法は、「移植栽培」の中でも「ポット式」という方法です。このほかに「トレー式」と言って、1枚のトレー(穴の開いていない平たいもの)に床土をしいて、そこに種籾をまく方法もあるようです。また、トレーなど使わずに田んぼに直接種籾をまく「直播栽培」という方法もあるそうです。どの方法も「良いところ」と「不便なところ・困ること」があるそうです。興味がある方はぜひ調べてみてください！

もみまきの ほうほう 方法

ことし のうこうたいけんがくしゅう わほん うえ がくねん した がくねん おし
今年も農耕体験学習のたて割り班で、上の学年が下の学年に教えながら、
てきはきと活動しました。



①機械に「床土」を入れます。



②一つひとつのあなに床土が入ったポット（トレイ）が出てきます。



③一つの穴に、種籾を2～3つぶずつ入れます。細かい作業ですが、上級生が優しくていねいに教えてくれます。



④全部の穴に種籾を入れたら、上から「覆土」をかけます。全部の穴にしっかりかぶさるように、ていねいに木のぼうで平らになります。



⑤覆土をかけ終わったら、トレーを運んで重ねます。この後、田植えまで田中さんのおうちでお世話をしてくれます。よろしくお願ひします



ことし ほんごしや かた てつた おし き
今年もたくさんの保護者の方がお手伝い、そして教えに来てくれました。そして、今年は さんによるお米についてのミニ講座もありました。いつも北光小学校を応援してくれて、ありがとうございます！